

- 1 ストープに夜雨の湖を想像す
- 2 霜夜なりカーテンの裾床に折れ
- 3 窓枠の下辺に雪や氷りつつ
- 4 階段に厚く積む雪斜面なす
- 5 カラバッシュ肉隆々と描きし冬
- 6 巨人の斧山脈割れる寒さかな
- 7 冬帽子点なる鳥を見るばかり
- 8 窓寒しテープで留めて幾写真
- 9 事務仕事遠くに鷗はしやぎつつ
- 10 昼寒く洗濯しては何もせず
- 11 磔像にかなしみのなしガーベラ咲く
- 12 葉桜や愛の続けば税のやう
- 13 どこにもな夏の心は繭でなし
- 14 蛇うねり泳ぐや川を冷やしめむ
- 15 漣に蛇の漣立ちにけり
- 16 飛行して雲に羽根置く暑さかな
- 17 等閑のコーヒーに膜蓮育つ
- 18 夏夕花の如くに蘇鉄の木
- 19 ウォーターズライダーみじかし叫ぶ必要なし
- 20 ウォーターズライダー管状の内轟ける
- 21 夏座敷ギターもたせる壁もなし
- 22 霧吹に足る鉢植のトマトかな
- 23 朝星に干すTシャツは皺のまま
- 24 帰宅して昼の匂ひは胡瓜かな
- 25 夏館でのひらよりも小さき絵
- 26 漂白の盥に沈着く帰省かな
- 27 邂逅に青き氷菓を食らひしのみ
- 28 舌さみし氷菓の篋の記憶もて
- 29 僧裕福猫怠慢の葵かな
- 30 帰省午後庭掃きはじむすぐをへぬ
- 31 茄子煮付ギヤマンにあり宅しづか
- 32 帰京以後朝顔の花おしひらく
- 33 中庭の夏蝶高さのみを知る
- 34 ナマケモノゐるはずの木の青嵐
- 35 象に踏みかためられつつ土暑し
- 36 嘴は籠嚙むことを夏夕
- 37 夏のくれ鳥の迂闊な相槌も
- 38 夕かなし糠味噌漬の瓜や茄子
- 39 糸瓜棚荷物少なく傘はなく
- 40 なき人の声を知らざる糸瓜棚
- 41 泣虫とすかんぽ吹かれ快し
- 42 鯛雲ペットボトルに水籠めゆく
- 43 かなしめば秋風冥利竹箒
- 44 露の玉年譜のはじめ疎なりけり
- 45 ペンギンの飛び込むに岩濡れて秋
- 46 かるかやに色をおぼえず書店前
- 47 木犀に遅刻の空の青さかな
- 48 芋の秋給油所に犬洗はれし
- 49 某日やまたもつめたき眼鏡嵌む
- 50 ねこじやらし鉢に育てて旅心とは

- 51 芒に日プールの水は抜かれてをり
 52 放蕩といへる間もなき唐辛子
 53 葛の葉やワイパーのあと扇形(なり)
 54 地震ありテレビつけては梨剥いて
 55 わが貌を映しパチンコ玉冷ゆる
 56 秋出水いちじくの葉のたれこみて
 57 名月に箸置くことを友と我
 58 この庭に菊の賑はひふと寒し
 59 湖に島と港と神の留守
 60 浜の大海を厭へば冷ややかに
 61 秋ながらサンダルなるよ浜辺に藻
 62 いちやうもみぢ踏みても路のかたさなる
 63 時の螺子巻くが日課の秋のくれ
 64 微塵子の見る藻の一片の冷ややかに
 65 蓮池の一面枯や訪ね来よ
 66 末枯や丸い眼鏡のル・コルビュジエ
 67 とある草むらさき色に枯れにけり
 68 芝枯れて彼方の犬の紐赤し
 69 落葉して猫太りしか抱いてみむ
 70 枯蔓や魔女の持たざる魔法瓶
 71 なにくはぬ貌に飛び雁弱からむ
 72 水涸れて彼らはこはいもの知らず
 73 朝寒のブーンといへるコンピュータ
 74 或るひとの今は生前竜の玉
 75 飲むものを買ひにいでけり汝も風邪
- 76 薄給やさざんくわ積める芝のうへ
 77 さざんくわのたよりこずともさがしこよ
 78 冬籠どきに詩毒となりにけり
 79 パンケーキ焼きたればバタ部屋寒き
 80 凍て星に樹液のひかりありにけり
 81 ストーブや夜は翼を休めつつ
 82 君不在咳の花咲く夜なりけり
 83 悉く影持つ冬木夜のあと
 84 金属に純度ありけり寒茜
 85 冬晴や抜かれて釘のしまはれし
 86 細胞に細胞膜や去年今年
 87 初富士に天の分厚しかつ青し
 88 洛中洛外凶雲黄金色葉喰
 89 鋤焼や花魁言葉ありんすをりんす
 90 麵喰へば彼安心の寒さかな
 91 懐に懐炉足しけり京の友
 92 ビニル傘雪はりつくや闇の下
 93 雪は耳そばだて降るか人の寝て
 94 ボブスレーひよいと飛び乗り身を収む
 95 三人が傾きボブスレー曲がる
 96 コンコルド翼儂し冬の空
 97 赤々とミネストローネ機上寒
 98 自動車の暖房はじめ風のみと
 99 運転任せわれは眠らむジャケットに
 100 カップ麺に水筒の湯を冬の浜